

平成 26 年度 第 2 回小水力発電事業化検討チーム会議(坊所川) 会議概要

日時：平成 26 年 10 月 23 日 (木) 16:00～16:30

場所：小田原市役所 4 階 第 4 委員会室

出席者（敬称略）

- ・小水力発電事業化検討チーム
辻村百樹
- ・小田原市事務局
エネルギー政策推進課長、エネルギー政策推進課副課長、エネルギー政策推進係長、
エネルギー政策推進課係員 2 名
- ・オブザーバー
押田健一（小田原市 建設部 道水路整備課）

概要

1. 坊所川における小水力発電事業について

(1) 資料に基づき、平成 25 年度までの検討状況と平成 26 年度のこれまでの検討内容について、説明を行った。

- 平成 25 年度は、流量観測及び縦断測量等により得られたデータを基に、大まかな事業採算性の分析を行った。
- 発電所建設のための工事費は約 2 億 8 千万円（樹木の伐採費用及び土地の取得費用を含めない。）と算出されたが、想定される発電規模から事業採算性が見込まれる工事費は、約 1 億 6 千万円であり、1 億円以上乖離している。
- 平成 26 年度は、工事費削減の可能性を調査するため専門家同行のもと、縦断測量を行った経路に沿って現地確認を行ったが、下道の整備で工事費がかかっている場合は、事業採算性を確保することはできず、事業化は見込めないという結論であった。

(2) 事業化の可否について

- コーディネーターと事前に調整を行い、坊所川の事業化の可否について事務局からコーディネーターの意見を伝え合意形成を図ることとした。
- 現地確認の結果、山が深く、導水管等の設置には樹木の伐採とそのための建設機械の搬入が必要となる。
- 現在の状況から、工事費は 2 億 8 千万円を大きく上回る可能性があり、工事費の削減は困難である。
- 検討チームとしては、坊所川における事業化は、固定価格買取制度を活用した事業スキ

ームでは事業採算性を見込むことができず、実現性に乏しいという結論としたい旨を伝え、了承を得た。

- 小水力発電所遺構は、それ自体の存在が再生可能エネルギー普及啓発に非常に有効なものである。

<主な意見>

- 取水口から沈砂池までの距離が長いことが、事業採算性が見込めないことの主な理由か。
⇒理由の一つである。距離が長い上に樹木の伐採費用も上乘せされるため、採算は悪化している。基本的には、水量と落差から発電量は想定されるため、工事費が削減されないと事業化は困難である。
- 今後の発電所遺構の取り扱いについては、既に活動している任意団体に委ねていく。

2. 平成 26 年度第 1 回小田原再生可能エネルギー事業化検討協議会への報告について

- 坊所川における小水力発電事業の事業化は、実現性が乏しいことを報告する。
- 遺構の取り扱いについては、既に活動している任意団体に委ねていく旨を報告する。